

八街市協働のまちづくり検討会分科会報告書

分科会名	第1分科会		
テーマ	高齢者・障害者福祉		
開催日	平成26年 6月27日	検討回数	第5回

検討結果概要

1. 今回検討した項目

・障害者福祉に関する現状と課題

2. 今回の討議した内容(報告)

- ①八街市における障害者福祉の現状は、障害者、それぞれの手帳の交付数、自立支援医療、地域生活支援センターの支援、こころの健康相談など年々増加している。
- ②障害には、身体障害・知的障害・精神障害、障害児があり、平成25年4月より難病等の対象者が追加された。精神障害の方の就業率が増加してきているが、バックアップの体制は充分ではない。障害者の方は手帳や特定疾患医療受給者証等が交付され、支援が受けられるが、発達障害は手帳の制度がなく、療育手帳や精神障害者保健福祉手帳の交付基準に該当しないと支援が受けられない。発達障害の中で、手帳が該当にならない軽度の方は、支援がない中で、他の人と違っている、コミュニケーションがとれない、適応出来ないなどで生きづらさを感じていたり社会から隔離され引きこもりになり不登校につながる子が多い。療育手帳が交付されれば、デイサービスを利用できるが、所持していない子は、学校や家にいる事になる。また、当市は父子や母子家庭が多い。市内には生活のため夜も仕事をしている家庭もあり、生活リズムが乱れ子どもたちが不登校につながることもある。
- ③市内で不登校(引きこもりやニート)を作らない支援が出来ないか。特別支援クラスにいける子はいいが普通クラスにいる子にも支援が必要。
支援員がいればサポート出来る。地域の方が支援のお手伝いを出来ないか。
学校という概念を外した遊び場を作ってはどうか。
お年寄りも、自分の経験を生かして支援できないか。農業を一緒に行い支援が出来ないか。大学生で係わってくれる人が少ない。積極的に関わりを希望するような対策を行うべき。
- ④障害者の方と接する機会がなく、どのように係わっていけば良いか解らない。まずは相手のことを知らないと係われない。地域で身近に障害のある人がいて、関心があってもどのように係わっていけば良いか解らない。
- ⑤昔は不登校はいなかった。今は、核家族化で近所の関わりがなくお互いを知る機会がない、体験不足、居場所がない事が要因か。子どもの頃から地域の人と接する機会があれば、シニアと若い学生なども町内会などに参加するなどの気運が生まれるのではないか。
- ⑥当市は自殺率が高い健康問題を抱えている人も多い。自殺防止の啓発も高めていかなければならない。
- ⑦産科医院がないため、若い人が市内で子どもが産めない。若い人が転入してくるような対策を講ずる必要がある。
- ⑧地域(NPO・教師・リタイヤした人等)の様々な人が、障害者の方や発達障害を抱えているお子さんを持つ親と子への支援を。
概念をはずした居場所づくり等のダイナミックな取り組みが必要とされるのでは。

3. 次回の検討方針

高齢者・障害福祉について、今まででた課題の中で、克服していくための具体的なアイデアを出していく。また、それがどのような理由から必要なのか。協働としてどのように考えていくかを各自出し合って協議をしていく。